

家族で
一緒に学ぼう!

いろいろな場面をテーマに遊びや生活の中に
学びがあることをお伝えしていきます

「遊び」は「学び」

教えて!みほ先生!!



絵本は読むもの?それとも……

子供は他者とのやりとりの中で、言葉や感情、社会性を発達させていきます。やりとりのコツは、体の動きを合わせることと対乳児発話(Infant-Directed Speech)です。対乳児発話とは、大人に対するより高い声で限られた短い言葉による発話のことです。なんだか難しそう…と思われるかもしれませんが、多くの人は無意識に対乳児発話で子どもに話しかけています。絵本は、こうしたやりとりにぴったりだと思いませんか? 食べ物が出てくる絵本では、「もぐもぐ」

などと言いながら食べる真似をしたりして、絵本を介したやりとりを楽しんでみてください。

もとおか みほ
本岡 美保子先生

広島都市学園大学子ども教育学部子ども教育学科 准教授/前職は、小学校教諭・保育教諭/研究分野は、乳児保育、保育実践、子育て支援/乳児保育、保育実践等に関する研究多数

絵本のお悩みQ&A



Q 何歳くらいから、読んであげるとよいのでしょうか?

A 赤ちゃんが、絵本に関心を示し始める時期については、諸説があり、個人差もあるので、「いつから」と一律には言えません。「読んであげたい」と思ったときに始めてみてはいかがでしょうか。まずは、赤ちゃんの機嫌の良い時に、ゆっくりと語りかけるように読んでみてください。

Q 読んでいる途中でページをめくってしまいます

A 子供にとって、絵本はおもちゃの一つのようなものです。絵本の内容よりも、ページをめくること自体が楽しいのかもしれないし、自分の見たいページがあるのかもしれない。子供のペースに合わせて、ゆったりとした気持ちで一緒に楽しみましょう。

参考:広島県立図書館 赤ちゃん絵本についてのQ&A

広島県立図書館

広島県立図書館 URL <https://www2.hplibra.pref.hiroshima.jp/>



家庭で「ちょっとやってみよう」と思える、役立つ情報を発信中

親子コミひろしま URL <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/oyakokomi/>



子育て奮闘中の家族です



とはいえけれど…

読み聞かせが大切だとは思いますが…
時間もないし、



もうこんな時間!

なかなか興味も
もってくれないし…



絵本読もうよ

おにんぎょうがいい!



こんな毎日で大丈夫かな?

大丈夫! 中を見てみよう

遊びや日々の生活の全てが学びです!

「遊び」や「生活」は子供にとって探求の宝庫。

遊びや生活の中で、発見すること、体を動かすこと、創造すること、困難を乗り越えること、人と関わることが、主体的に学び続けることにつながります。

0歳ごろ

まだ言葉は話せませんが、保護者の声は聴いていて、声のトーンや表情の変化も感じています。

身近に本を置いておくと、自分で本に近寄っていくことがあります。興味を示したら声をかけてみましょう。

絵を指さしたり、声を出すなど、反応があったらその部分で止まって「美味しそうだね」「かわいいね」など顔を見ながらたくさん語りかけてみましょう。



感じる・気付く力

楽しいね

かわいいね

1歳～1歳半ごろ

色や形、音に興味をもったり、単語を少しずつ覚えたり、真似をしたりし始めます。

子供の発した言葉を繰り返したり「あかだね」「あおだね」などの簡単な色を伝えたりするのもいいですね。動物の鳴き声や救急車のサイレンなど、音にも興味を示します。動きや鳴き声などが描かれた絵本や、リズムや言葉がおもしろい絵本など子供が興味を示すものをおすすめです。



考える力

うごく力

人とかかわる力



読み聞かせを楽しむアイデア

- 1 声や効果音を変えてみる
- 2 主人公の名前を子供の名前に変えてみる
お話しの主人公を子供の名前に変えることで、絵本の世界により入りこむことができるかもしれません
- 3 クイズ形式を取り入れる
「次はどうなるかな?」「ここは誰の家かな?」などクイズを出しながら読み聞かせを行う

- 4 実際のものや結びつけてみる
絵本の中に出てきた生き物や食べ物などを実物を見せながらお話しすることで、絵本とリアルな質感や色を関連づけるようになる
- 5 就寝時は本の長さや読む速度を変えてみる
- 6 家族で分担する
内容によってはきょうだいを読んであげるのもステキですね!!

「5つの力」って何?!

乳幼児期に育みたい力

感じる
・
気付く力

うごく力

考える力

やりぬく力

人と
かかわる力

2歳ごろ

内容や話しの流れなど少しずつわかってくる時期です。

抑揚をつけたり、感情を込めて読んだり、読み方に少し変化をつけると喜んでくれることも。一方で単調な読みの方がストーリーに入りやすいこともあるので、本にあわせた読み方を心がけましょう。

途中で飽きてしまったり、気に入ったページを行ったり来たりしてなかなか進まなかったりすることもあります。最後まで読むことが目的ではなく、まずは絵本を介して遊んだり自由にやり取りしたりするなど“絵本を楽しむ”ということから始めてみましょう。

感じる・気付く力

考える力

人とかかわる力

おぼけだね



POINT

POINT 1

- 読み聞かせは、読み聞かせをしているお父さん、お母さんの心や脳も健康になると言われています。保護者が絵本を楽しむ姿から子供たちにも本の楽しさが伝わると良いですね。

POINT 2

- 読み聞かせを負担に感じないためのこつ
 - ・毎晩何冊読むと決め過ぎない
 - ・保護者の好きな本を読む
 - ・疲れている時は無理をせずゆとりのある時に読んであげる



目的別の絵本選びのこつ

- 1 生活習慣につながる内容のもの
トイレや着替え、歯磨きに関連する絵本を楽しむことで自分から意欲的になるかもしれません
- 2 普段の経験と結びついたもの
絵本の世界から自分の経験と結びついたものを知ることで親子のコミュニケーションにつながります
- 3 保護者の癒しになるもの
保護者自身がお気に入りの絵本を選ぶことで自分自身の癒しにつながります